

ご存知ですか? ナッツアレルギー



カシューナッツが加わり
8種類のナッツ類(含むピーナッツ)の
測定が可能になりました

*厚生労働省アレルギー物質を含む食品に係る表示義務より

ナッツを含む食品の一例

主食・主菜・副菜

パン



和えもの



カレー



担々麺



シリアル



食用油

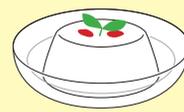


菓子・嗜好品

チョコレート



杏仁豆腐



アイスクリーム



ケーキ



リキュール



クッキー



ナッツアレルギー（含むピーナッツ）の特徴

日本ではアナフィラキシーを引き起こす食物としてソバが有名ですが、最近10年ほどではピーナッツやナッツ類が即時型アレルギーとショック症状の原因として増加しています¹⁾。

● 重篤な症状を起こすアレルゲン

ナッツアレルギーは微量でも皮膚症状、呼吸器症状、消化器症状などに加え、重篤な全身症状を起こす例も多く報告されています¹⁾ (図1)。

● 耐性を獲得しにくいアレルゲン

小児の乳製品、卵、大豆アレルギーでは年齢とともに摂取が可能になるケースが多いですが、ピーナッツ、ナッツなどは経年的な耐性が得られにくいと言われています²⁾。

● 幅広いファミリーに分類されるナッツ類

植物学的にはピーナッツはマメ科であり、クルミ、カシューナッツ、ヘーゼルナッツはそれぞれ別の科に分類されます (図2)。アーモンドはバラ科の種実でリンゴやアズノの仲間に入りますが、果肉ではなく、種を食べるという点でナッツ類に分類されます。カシューナッツでは他のアレルギー疾患を併発せず、単独でアレルギーを認めるケースも多い特徴があります³⁾。

ナッツ類としてひとまとめにせず、個別に診断する必要があります。

● 成人でも発症するアレルギー

小児だけではなく、成人の症例も多く報告されています^{3) 4) 5) 6) 7)}。

● 花粉症との関連

クルミ、ヘーゼルナッツなどのナッツは果物・野菜とともに、カバノキ科 (ハンノキ・シラカンバ等) 花粉症に合併する口腔アレルギー症候群 (OAS) の原因食物としても知られています。これは花粉、果物・野菜とナッツ類の間に存在する共通抗原が原因であると考えられています⁸⁾。

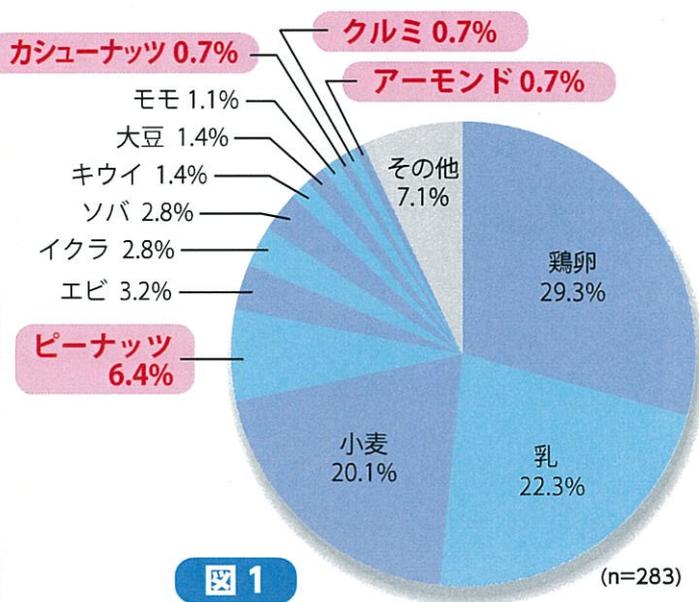


図1

ショック症状を呈した原因食物

今井孝成：平成20年度厚生労働科学研究：摂取後60分以内に症状が出現し、医療機関を受診した患者数の割合

図2

科	種
ウルシ科	カシューナッツ ピスタチオ
クルミ科	クルミ ペカンナッツ
バラ科	アーモンド
マンサク科	ハシバミ (ヘーゼルナッツ)
サガリバナ科	ブラジルナッツ
アオギリ科	カカオ
ヤシ科	ココナッツ
マメ科	ピーナッツ

参考

1) 平成17年度・平成20年度厚生労働科学研究 モニタリング調査
2) アレルギー・免疫；17：(6) 998-1003, 2010
3) アレルギー；56：(8.9) 223, 2007

4) アレルギー；56：(8.9) 224, 2007
5) アレルギー；52：(10) 1022-1026, 2003
6) アレルギー；56：(3.4) P61, 2007

7) アレルギー；55：(8.9) MS9-3, 2006
8) アレルギー・免疫；9：(5) 564-570, 2002

ファディア株式会社

〒163-1431 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー
お問い合わせ先：0120-489-211 www.phadia.jp